

げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2001 第11号 AUTUMN



- 第2回 ふくい県民文化祭開幕
- みくに龍翔館訪問
- フクイデザインマインドコンペ2001
- 福井の文学碑 山川登美子 (小浜市)

就任ご挨拶

福井県でんふれあい福井財団

理事長 前川 則夫

第11回理事会（9月27日開催）で推挙され当財団理事長に就任しました。

当財団が発足して12月で4周年を迎えますが、お陰さまで、財団は皆様方の温かいご協力とご支援によりまして、



福井県の文化の振興をはじめゆとりとふれあいのある地域づくりに微力ながらお手伝いできるまでに定着してまいりました。

21世紀に入り、福井県では第20回国民文化祭の開催が決まるなど、「ふくい」の文化の継承と創造を目指した色々の取り組みがなされています。財団としても、県・市町村や文化団体等と連携を密にして、新世紀の文化を開花させる基盤づくりやふれあい活動に努めていきたいと願っています。

私は福井に生れ、ふるさとを同じくする一人として、福井にふさわしい財団として県民のみなさんから親しまれ、信頼され、地域に根ざした財団運営を固めていきたいと思っておりますので、一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第2回

ふくい県民文化祭開幕

ふくらまそう ゆめ・愛・未来・人・文化

オープニングフェスティバル

合唱・バレエなど9団体

ステージを飾る

武生市

新世紀のスタートを飾る第2回ふくい県民文化祭は、9月1日、武生市文化センターでオープニングフェスティバルを行い、華やかに芸術・文化の秋を開幕しました。

式典では、大会長の栗田知事が「多くの県民のみなさんが参加し、楽しんでほしい。そして、平成17年に本県で開催される国民文化祭につないでほしい」とあいさつ。

続いて、「みんなでワイワイ・オンステージ」にうつり、公募により参加した9団体約230人が日頃の練習した成果を舞台で披露しました。

最初に、大正琴「琴雲会」が、明日があるさ、など名曲の演奏にはじまり、藤乙女の民謡民舞、邦楽では県華曲連盟などの華曲の合奏が続きました。

地元からは、市民合唱団「武生」と武生南小学校「虹の輪合唱団」の世代を超えた百人がアニメ映画のテーマ曲や童謡を高らかに歌い上げました。また、フクイバレエ団前田美智教室のメンバー30人が華麗なクラシックバレエを披露しました。



華麗なバレエを披露するフクイバレエ団 前田美智教室のみなさん

和太鼓では、越前打込太鼓や風巻太鼓が勇壮な響きをとどろかせ会場から大きな拍手が送られていました。

最後に「みやびうたコンサート」と銘打ち、大阪市在住のソプラノ歌手歌枝直美さんが武生市味真野地区ゆかりの万葉和歌をモチーフにした曲を独唱し、会場に集まった約8百人の観客を魅了していました。

またホワイエには、茶席が設けられたほか、県内の華道各流派の作品が展示され、集まった市民は芸術一色の会場を楽しみました。

++ 表紙の説明 ++



ほうじょう会 放生会 小浜市

若狭地方最大の秋祭り、小浜市男山の八幡神社例祭「放生会」が9月14、15日の2日間、同市街地で盛大に行われました。

300年以上の歴史を誇る放生会は、推された魚などを年に一度放してやるという仏教儀式の「放生」に由来。現在の祭りの形になったのは明治の町名改編以降といわれ、近年では、旧市街地24区の半数が毎年交代で出番。太鼓、山車、獅子舞、神楽、神輿の5種類の多彩な出し物を奉納するようになりました。今年は、出番の12区がそれぞれ出し物を担当。うち山車は、清滝、今宮、電田、飛鳥の4区が出番し、見送り舞、水引き舞など伝統的で豪華な装飾品をうけついで山車が、笛や太鼓などを響かせ町内を巡幸し、熱気あふれる秋祭りを盛り上げていました。

CONTENTS

- ・第2回ふくい県民文化祭開幕 2・3
- ・みくに産物館訪問 4・5
- ・フクイデザインマインド コンペ・2001 6・7
- ・県内高校文化祭活動をたずねて 8
- ・第4回証言を交しむ会 9
- ・浅山千作編にインタビュー 10
- ・シリーズ2 福井の文学碑 山川登美子 11
- ・敦賀市立博物館所蔵絵巻上展 12
- ・ふくいの伝統芸能「オレンッサマのお祭り」 13
- ・装い新たに福祿儀芸会 14
- ・情報ファイル 15

フェスティバル 写真点描



9/15 マーチング部門。WEST SIDE STORYを演じる
仁愛女子高マーチングバンド・ドラムコー＝鳥宮体育館



9/16 吟詠剣詩舞フェス・独吟「秋思詩」と剣舞を演じる
宗生流詩舞道会のみなさん＝勝山市民会館



9/24 茶道フェス・県民大茶会で「学生茶席」が設けられ、
高校生らが点前を披露＝大野市有終会館



10/8 日本舞謡の原典 常盤津「角兵衛」を舞う出演者
＝ハートピア春江



10/8 室内楽・管弦楽フェス・プリズム・ラブソニーを
演奏するアンサンブル「プリズム」＝ハーモニーホールふくい

分野別 (18部門)
フェスティバル

芸術の秋を彩る

マーチング・民俗
吹奏楽・芸能
を新設

今年度の分野別フェスティバルは、9月8・9日、今立町いまだて芸術館で開かれた演劇フェスティバルを皮切りに、11月18日まで3ヶ月間、県内20会場（祭典開催日程、下表のとおり）で茶道や華道・音楽・舞踊など18分野に県内約百団体5千人が参加して、日頃の練習の成果を披露するなどそれぞれ会場一杯に芸術の秋を魅了する文化イベントが繰り広げられました。

同祭典を主催する実行委員会では、平成17年度に本県で開催される国民文化祭に向けた基礎整備につなげようと県民参加の祭典への盛り上げを呼び掛ける一方、年度初めから分野別運営部会を開いて、参加団体の技量向上や創意工夫をこらした運営に努めてこられました。

ある部門では、舞台演出に「福井らしさ」を創作する演題や流派を超えて「ふくい」を発信する舞台づくりが披露されるなど新しい祭典への取り組みも目立ちました。また、今年からマーチング・吹奏楽と室内楽・管弦楽部門が新設され、洋楽分野の取り組みが目まぐるしくなりました。

一方、今まで別に開かれていた民俗芸能大会が加わることになりました。

この大会は、国や県から指定されている無形民俗文化財の保存会などが出演する民俗芸能大会で、11月4日・南条文化会館で「越前万歳（武生市）や瓜生八雲松（上中町）など福井県の代表的な伝統芸能が披露されました。



11/4 県民俗芸能大会＝南条文化会館 伝統芸能「表兜の米」（丸岡町）で盤持ちを演ずる保存会のみなさん

財団「福井らしさ」
発信分野に助成

財団では、分野別フェスティバルに参加する団体の技量向上と「福井らしさ」の特色を発信するため、事前研修や講習会の開催を支援する助成制度を設け、分野別フェスティバルに協賛し、本年度は11団体に助成支援を行いました。

分野	開催日程	会場
演劇フェスティバル	9月8日・9日	いまだて芸術館
マーチング・吹奏楽フェスティバル	9月15日	鳥宮体育館
吟詠剣詩舞フェスティバル	9月16日	勝山市民会館
茶道フェスティバル	9月24日	大野市有終会館
華道フェスティバル	9月25日	福井市ベル
日本舞踊の祭典	10月8日	ハートピア春江
室内楽・管弦楽フェスティバル	10月8日	ハーモニーホールふくい
音楽コンクール	10月13日	ハーモニーホールふくい
大正琴フェスティバル	10月13日	武生市文化センター
第54回福井県総合美術展	10月13日	県立美術館
民間民舞フェスティバル	10月20日	南条文化会館
能楽フェスティバル	10月20日	福井能楽堂
邦楽フェスティバル	10月20日	福井市文化センター
合唱フェスティバル	10月20日	ハーモニーホールふくい
洋舞フェスティバル	10月20日	福井市文化会館
生活文化フェスティバル	11月4日	福井市ピア
29回福井県民俗芸能大会	11月4日	福井市民会館
ふくい文学祭	11月18日	福井市民会館
ふくい詩祭	11月18日	福井市民会館

みくに龍翔館訪問

三國町

みくに龍翔館は、明治12年（1879）白亜5層8角形という珍しいデザインで、当時の文明開化にみまわしく建立された龍翔小学校の外観を模して、昭和56年（1981）郷土資料館として復元されました。港町として栄えた三國の歴史や文化を守り、伝え、また特別企画展で「三國らしさ」を掘り起こして親しまれている同館の活動に愛着を感じながら同館を訪ねました。

イントロ ダクション

港を象徴・満帆の和船

同館の扉をあけると、正面には長さ5.5メートル、高さ5メートルの大きな和船が帆をひろげて展示されています。

この和船はベサイ船とよばれていた型式の船で、干石積の積載量を想定して5分の1の縮尺でつくられています。江戸時代後期から明

治中期までこの船を駆って日本海交易を行い、三國湊に隆盛をもたらしたことから同館のイントロダクション（導入部）として記されています。

ベサイ船の周辺には船給馬目点と方角石のレプリカが展示。名勝、東尋坊を描いた大水墨画（故渡辺悟仙画伯書）が展示され、三國の自然や歴史、文化の象徴を語りかけているわけです。

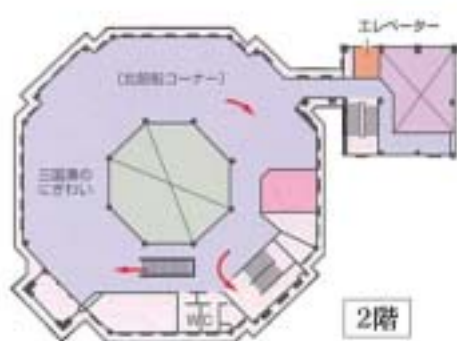
三國の自然

1階

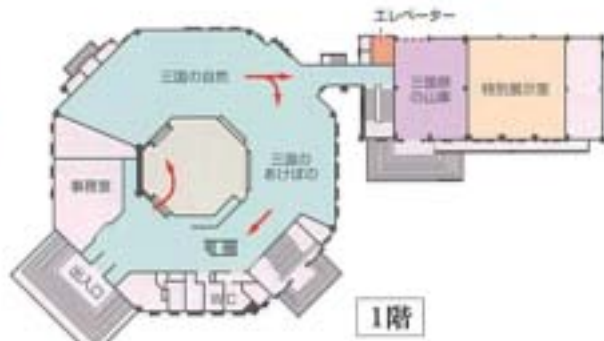
「三國の自然」コーナーでは、自然科学の宝庫ともいえる三國の自然・地理環境を解説するため「三國の海」「三國の陸地」「三國の森」「三國の台地」の四つのテーマで展示コーナーを分けています。展示には、テーマ毎に、樹生と地質をベースとして、鳥類、昆虫類、魚介類など生態系を知る資料を重ねた展示構成で紹介しています。



1.5の縮尺で造られたベサイ船模型



2階



1階



交通アクセス

三國のあけぼの

1階

三國町内では、約130カ所の遺跡が確認されており、発掘調査が進むとともに三國の古代史を解明する新資料が続々と出土しています。「三國のあけぼの」のコーナーでは、西下向遺跡から発見された県内最古の旧石器、弥生文化の象徴といわれている銅鐸（県文化財指定＝複製模写銅鐸）、昭和60・61年にかけて発掘された加戸下屋敷遺跡から出土した銅鐸の鋳型や玉造りの遺物などが展示され、これらの資料から古代の三國のあけぼのといえるロマンを語りかけてくれます。

三國祭の山車 近代絵画・企画展 別館

毎年5月20日、三國祭に勇壮な武者人形をのせた山車が三國神社に奉納され、町内を練り歩きます。別館の前室には、明治期の巨大な山車を復元展示しています。人形



復元した明治期の山車

三國湊の発展と にぎわい

2階

三國湊は、奈良時代在園の積み出し港としての役割を果たし、以来越前の物資集散の地として発展してきました。

江戸中期以降には、三國湊の商人たちも造船経営に力を入れはじめ、江戸後期には日本海側有数の北前船の中継基地に発展しました。また福井藩が港の繁栄の証に努



「三國のあけぼの」展示コーナー

の大きさ約8メートル、舞台の高さ約3メートル、計約11メートルで、その大きさに驚かされます。奥の展示室では、常設時には新選組、大沼静庵西面伯のふるさとを描き出した近代絵画20点が展示され、三國の心情を見る温かい作品が目立ちます。

今回の訪問では、特別企画展がもたれ、「こどものみくにを描こう展・回想展」が開かれており、町内小・中学生の描いた150点の絵画が展示され、訪れた人の目を楽しませていました。



三國軍節や商売に使った調度品。民家の台所も復元。

めたこともあり、三國湊は規制を受けながらもさまざまな特権を与えられ、森田家、内田家といった豪商を中心に大いに賑いました。展示場では、北前船コーナーを設け日本海交易に活躍した北前船の姿、同船をめぐる資料や航海上の諸問題などを展示紹介しています。

海商と交易の繁栄に伴い町人文化を開花させ、指物、彫刻、塗り、唐木細工などの工芸職人が育ち、三國湊の賑いを演出したといわれています。

港の最盛期は、幕末期から明治初期の間で、明治12年（1879）にオランダ人技師G・A・エッセルのデザインによる5層8角の偉容を誇る龍形小学校を完成させ、日本最初の西洋式工法の九頭竜川河口防波堤工事という大事業を推進するなど、商人が一致して莫大な浄財を投じたことは、当時の三國湊の裕福な財力を物語っています。



往時の三國湊をしのぶ敷きみ模型

三國港の変貌

2階

明治30年（1897）北陸線の鉄道開通などで、それまで河川を利用して港へ集めていた物資は鉄道へとつり、明治後期より三國港の港湾機能は年毎に低下、経済力も急速に衰微しました。

これに対処するため、明治44年（1911）に三國支線の敷設に成功しましたが、再起かなわす商港から漁港へと転換していきました。現在では、三里浜に福井新港と臨海工業地帯（テクノポート）が建設され新しい発展が期待されています。

三國町のくらし

3階

「三國町のくらし」のコーナーでは、豊かな自然と港の繁栄の歴史の中で、三國の人達がどう暮らしてきたかを衣食住にわたって紹介しています。住のコーナーでは、商売に使った調度品やのれん、道具類のほか、全国的にも類のないデザインの三國軍節などを紹介しています。食コーナーでは、旧三國町内の民家の台所を一部復元、衣コーナーでは、仕事別の装束一式をそろえ、商人や漁師などのくらしぶりを紹介しています。



4階

3階

三國を舞台に 文学の世界

3階

三國は、歴史の町であり、「文学の里」にも指定されています。北陸の風情漂う三國町を訪れ、そして愛した文学者が沢山いました。3階には「三國と近代文学」のコーナーを設け、三國を舞台とした美しい文学の世界を紹介しています。



富見順の書斎復元



① 詩集 死の淵より
② いやな感じ

三國で生まれ、昭和文壇を代表する作家富見順。漂泊の旅の中で、三國を、わが心のふるさと、と語った詩人三好達治。俳人高浜虚子と薄命の俳人森田愛子、伊藤柏翠の師弟愛など三國にまつわる文学の足とりや書斎の復元、貴重な文学資料が展示されています。また、室生犀星、吉夷明、多田裕計など三國を訪れた文学者の作品なども紹介しています。

G・A・エッセル 九頭竜川防波堤を建議

3階の一角に「エッセル」コーナーが設けられています。

明治12年（1879）に落成した龍形小学校は、異様とも思えるデザインで、町民はもちろん全国の人を驚かせました。その設計は、オランダ人土木技師G・A・エッセルです。



エッセルはオランダ・ハーグに生まれ、王立アカデミーで水利工学を学び、みづから志願して来日。三國や新湊などで土木工事を指導、日本各地で功績を残しました。

エッセルは、水利工学が専門でしたが、建築や美術にも興味をもち、三國の教育・文化の面にも大きな功績をのこしました。エッセルは、九頭竜川河口の改修を指導するため、明治9年（1876）三國に来訪。河口の実地調査や防波堤築工計画をたて、工事は国、県、町民の官民一体となった出資により明治11年（1878）に着手。大波による被害などで手直しを繰返しながら、同18年（1885）に完成しました。この防波堤は、西洋式工法による日本最初のもので、延長520メートル（現在927メートル）、この天然岩捨石式防波堤「石積み波消し」は現在も立派に機能しています。

同堤は、本年5月、貴重な文化遺産として、国（文化庁）の文化財建造物に指定されました。



フクイ デザインマインド コンペティション2001

Fukui DESIGN MIND competition

公開
審査会

暮らしや社会問題に 改善・解決策を提案

普段の暮らしや、社会問題の中から課題を見つけ、その改善や解決策を提案するまでの内容や発表技術を競う「フクイデザインマインドコンペティション2001」の公開審査会が9月30日、福井市の国際交流会館で開かれました。予選を通過した高校7チームと一般7チームが参加し、自由に選んだテーマの企画や提案などを発表しました。

金賞

一般 うさぎさんチーム (谷さん一家)
高校 丹南高校 84 (はちフォー) チーム

このコンペは、県がデザイン立県を目指し、デザインに対する県民の意識啓発を図ろうと取り組んでいる企画で、県と(財)県デザインセンターが主催(当財団・協賛)し、今年で4回目。

今年、過去最高44チームがエン

トリーし、1次審査を通過した高校の部では、県内高校6校から7チーム、一般の部、7チーム、計14チームが公開審査会に臨みました。

各チームは、寸劇や対話を取り入れたり、自作のコンピュータグラフィックスやパネル、模型などを使い、7分の制限時間内で、それぞれ趣向をこらして、デザインに至るまでの過程を発表しました。発表後は審査員から提案内容などの質疑が行われ審査の参考にされています。

審査は、武蔵野美術大学教授長澤忠徳氏が委員長に、岡山県子氏(消費生活アドバイザー)、坂田守正氏(デザイン文化科学研究所所長)、友廣みどり氏(月刊ウララ編集長)が当たり、「問題や課題の発見の視点とその分析力や探求力」「解決、改善提案のまとめ方」「プレゼンテーションのわかりやすさや説得力」などをポイントに審査をうけまし

金賞の喜びを語る丹南高校84チーム



審査は、武蔵野美術大学教授長澤忠徳氏が委員長に、岡山県子氏(消費生活アドバイザー)、坂田守正氏(デザイン文化科学研究所所長)、友廣みどり氏(月刊ウララ編集長)が当たり、「問題や課題の発見の視点とその分析力や探求力」「解決、改善提案のまとめ方」「プレゼンテーションのわかりやすさや説得力」などをポイントに審査をうけまし



障害者が簡単に着れ、祭りを盛り上げる法被のデザインを披露したナーティストチーム

審査会による慎重な厳選の結果、受賞チーム(下表のとおり)が発表され、金賞(県知事賞)には、高校の部、テーマに「減少する映画客」を取り上げた丹南高校84(はちフォー)チーム(西川舞さん・武藤羽濃さん・井上めぐみさん)、「一般の部では、テーマ「平成一菜園のススメ」を発表した「うさぎさんチーム」(武生市:谷藤博・真理子・正子さん)が選ばれ、会場から大きな拍手が送られました。



財団では受賞者全員に越前漆器製のトロフィーを贈呈しました

受賞のみなさん

	チーム名	テーマ
高校の部	金賞 丹南高校 84 (はちフォー)	減少する映画客
	銀賞 春江工業高校 MOMOTARO	自電車通学!!
	銅賞 香新高校 INFERNO (インフェルノ)	ベビーベッド
一般の部	金賞 うさぎさんチーム (谷藤博・真理子・正子)	平成一菜園のススメ
	銀賞 TEAM Nattlest (ナーティスト/徳島県立・香取女子)	障害をもっている人でも簡単に着ることができ 気持ちを盛り上げてくれるような法被
	銅賞 チーマイゴ (木下真子・小橋純)	手をつなごう
	審査員特別賞 ドット.com (ドットコム) (三反園美紀子・宮下裕子)	そこのけ そこのけ “電車” が通る!!

表彰式後、審査員各氏から講評が行われ、今回は、電車やバスなどの交通、環境問題や「心」の問題に連結した課題に取り組んだグレードが高く、しかもユニークな提案が目立ち、審査に苦労したことや今後の活躍に期待する激励が寄せられました。長澤委員長の総評では、「4回目を迎え、発表の伝達、内容も興味され、びっくりするレベルが上がった。特に、今年の特徴として第1次審査の時より、企画、内容が大きく変わったのが多かった。デザインは基本は変わらなくても時の経過でよい方向に変わるのには評価しなければならぬと思う。デザインは、デザインを育ててくれる。今日までの皆さんの努力に感謝したい」と賞辞を送りました。

輝く金賞チーム 発表のあらし

高校の部

丹南高校84(はちフォー)チーム

テーマ 減少する映画客



テーマを発表する84チーム

●レテオやDVDの普及、●映画料金が安い、●交通手段が不便があげられます。映画館の利用率を上げるための3提案として、①交通の便として電車の無人駅の改善が必要。●照明を明るく、●ユニ収集などきれいな環境、●ちよつと人の交流の場所となる駅に、②多くの人が利用できる映画



発表に使われたパネル

プレゼンテーション方法
スピーチ/対話/CG/パネル

3提案で「親しみのある映画館」に

私達は映画ファンで、将来映倫関係の仕事に就きたいので、このテーマに取り組みました。近年、映画館が増加しているわりに、「映画客が少くない」。全校生対象としたアンケートでは、「利用率」78%、「利用しない」22%で、利用しない理由として

館にするため●荷物・傘など収納設備の改善、●障害者などのためのバリアフリー化などを行う。③フィルムコミッションの設置。そこで利用側、配給側の意見を聴く調整機会の役割をします。以上三つの提案を満す「親しみのある映画館」にして、足を運ぼう。

一般の部

うさぎさんチーム (谷津博・真理子・正子さん)

テーマ 平成一菜園のススメ



親子で発表する各一家

●環境にやさしく●活動を通して●生命を大切にする 方策として「菜園づくり」を提案、この実証を親子の対話などで説明しました。先ず、学校における「野菜」についてのアンケートの実施結果を参考に、家庭における身近かあるバケツを利用し、水管理を工夫した、木炭、新聞紙、土壌を使った鉢づくりや、プランターによる菜園など、種まき

プレゼンテーション方法
スピーチ/CG/パネル/実物

親子で菜園づくりを

今日、子供達は、本、テレビやインターネットなどで色々な情報を得る時代を迎えたが、「モノ」の実体を知らないことが多い。最近、子供が犠牲となる事件が多発し、生命を大切に社会づくりこそ急務。そこで、●身近なモノで、●環境にやさしく●活動を



発表に使われたパネル

から収穫まで、親子での体験活動を通して野菜を理解する。このような親子で楽しむ菜園づくりは、物だけでなく感謝の気持ち育て、心豊かな社会づくりにも通ずることを強調しました。

がんばっています
ボランティア

かこれあ会(福井市)

かこれあ会はカトレアの花言葉「愛情と音楽」をモットーにボランティアについて考え、互に手をつなぐとう福井市白之出地区を中心として結成された女性の会(会長高畑和子さん)です。きっかけは、同地区区協活動に協力しようとして平成4年7月に発足、現在64名の会員が参加しています。



お年寄りへの調理作業をおえた会員のみなさん

この会では毎月2回程度、あざくら苑(特別養護老人ホーム)で車椅子を利用する入所者のショッピングセンターでの買物を介助したり、年2回地区内の一人暮らしのお年寄りに食事の調理・サービスを行う奉仕活動を続けています。また、地区社協主催の「いきいきサロン」に会員が当番制であったり、お年寄りとのレクリエーションを実施するなど生き甲斐づくりの輪を広げる活動にも大きな役割を果たしています。高畑会長さんは「これらの奉仕活動とあわせて住みよい街づくりを女性の目から提案することが大切。今年9月に、滋賀県の「雨森芳州庵」交流会館などを見学しましたが、会員の親睦とあわせて研修活動にも力を入れたい」と語っていました。



高校文化活動を たずねて①

敦賀高校
吹奏楽部

2003年、全国高校総合文化祭福井大会の成功を目指して、県内高校の文化部では美術・文化活動の活性化や技量向上を図る練習に励んでいます。これから高校生を取り組むの姿をシリーズで紹介することにしました。今回は敦賀高校吹奏楽部を訪ねました。

県立敦賀高校吹奏楽部は、昭和33年に結成され、今年で創部43年目を迎えます。マーチングの活動は、本格的に始めたのが5年前の平成8年からです。



本年8月福岡県で開催された全国高校文祭に県代表で参加した敦賀高校吹奏楽部の発表

現在は1年生から3年生合わせて60名で座奏とマーチングの両方の活動を行っています。昨年11月には、京都で開催された第20回近畿高等学校総合文化祭のマーチングバンド、パトントワリング部門に福井県代表で参加し、他府県の学校と交流を深める中で、大きな自信をつけ、また本年度は、8月3日から7日まで福岡県で開催された第25回全国高校総合文化祭の吹奏楽部門に県代表として派遣され、大きな経験を積みました。さらに同月1日には北陸吹奏楽コンクールに3年連続出場するなど夏休みも返上しての活躍や練習でめざましい成果をあげています。また、地元で行われるイベントにも毎年積極的に参加し、本年もつるがまつり(9月1日)のカーニバル・パレードに加わり、敦賀高校マーチングバンドここにあり、と威勢のよい音楽と行進を披露していました。

今年度は、マーチングのテーマ曲を「カサブランカ」とし、毎週放課後2時間梅田宗典先生の指揮・指導で、今後の出演予定の県高校総合文化祭の音楽フェスティバルや全国マーチング大会などに焦点をあて意欲的な練習に励んでいます。



マーチング北陸大会を前に練習に励む部員のみなさん
—敦賀市体育館

同部のマーチング結成当時から指導に当たってこられた梅田先生は「部員全員が音楽が大好きな者の集まりで、見ても聴いても楽しめる音楽をつくらうと、毎日、ひたむ

見て・聴いて
楽しい音楽づくりを



「敦賀まつり」のカーニバル・パレードに参加
—敦賀市気比神宮前大通り

きに頑張っています。私もその気持ちに伝えたい。本日の音楽の楽しさを追求する」という姿勢で、安んじない音楽への心がかけています。2年後の全国総文祭では、全国の沢山の音楽を愛好する仲間たちと交流し、それがより有意義なものになるよう、日々の活動を充実させていきたい。」と語ってくれました。

現状に満足せず
「常昇」をめざす



敦賀高校 2年
吹奏楽部長
岡田 亜希奈さん

今年度の活動は、座奏では、3年連続北陸大会に出場、8月には、全国高等学校総合文化祭に参加しました。マーチングでは4年連続北陸大会に出場します。また、県音楽フェスティバルや、3月には定期演奏会を行います。

敦賀高校吹奏楽部の特徴は、生徒が中心となつて練習メニューを考へることです。限られた場所、放課後2時間という限られた時間内で、効率の良い練習メニューを考へるのは、とても大変です。時には、意見が衝突します。そんな時こそ、お互いに主張して、お互いに認め合います。みんな良いモノを創りたいという思いは同じです。そのために、ミーティングを何回も開いて、みんなの意見を高め合っています。

今ある現状に満足せず、常に上を目指すという意味を込めた「常昇」、そして私達を支えてくれる沢山のの方々に感謝して、これからも活動を続けていきます。

狂言を楽しむ会

昼 敦賀の中学生体験学習
夜 伝統芸能の喜劇を堪能

対国では人間国宝の茂山千作師一門を招き「狂言を楽しむ会」（日本原電協賛）を10月16日、昼と夜の部に分け、敦賀市プラザ萬葉の能楽堂で開催しました。

この機会に、昨年、文化功労者に顕彰された千作師に「狂言の世界」についてお聞きしました。



「萩大名」で円熟した演技を披露する茂山千作師

インタビュー 愉快で面白い演出がモットー

◆昨年、国の文化功労者に選ばれ、益々お元気な様子で、今の心境は…
私は、昨年栄誉を迎えましたが、健康にも恵まれ、「狂言の世界」で初めて文化功労者として顕彰いただき、この界の発展のためにも大変光栄なことと思っています。

◆師匠が今日まで「狂言の世界」に入られて「座右の銘」としておられることは…
狂言は喜劇であり、お客様が

人間国宝
茂山千作「狂言の世界」を聞く



狂言鑑賞に集まった中学生

当日の昼の部では、敦賀市内の中学生（気比・松陵・愛発中）約450名が体験学習の一環として狂言を鑑賞しました。
公演の前に、能舞台の構造や狂言の小道具の使い方、狂言の泣き、笑いの演技などについて解説が行われた後、「柿山伏」と「附子」の2曲が演ぜられました。附子は小学

校の教科書にも登場する有名な狂言だけに、役者の滑稽なしくさの連続に会場から笑い声が沸き、大きな拍手が送られました。
夜の部では、約5百人のファンが会場を埋め、開幕に先立ち、茂山千三郎さんから能楽堂のいわれをはじめ上演曲目の見方について解説が行われ、続いて、「萩大名」「千鳥」「涙（すす）き川」の3曲が演ぜられました。



笑顔絶やさずインタビューに応える千作師

「萩大名」では人間国宝の茂山千作師が大名で登場、田舎大名が名麻の萩の花の見学に挨拶がわりの詠歌をめぐり、太郎冠者との出かける前の大騒ぎや麻の亭主を巻きこんだトンチンカンな振舞い、コメディカルなセリフの演出に、会場から大きな笑いが沸き起り、千作師の円熟した演技に終始大きな拍手に包まれていました。
最後に、恐妻物で、妻と姑と婿養子めぐり、気の強い男をいたぶる姿や、男の抵抗ぶりを可笑しく演出した「涙き川」が上演され、当日のフィナーレを飾りました

明らかに、愉快な気持ちで観ていただくよう心掛けてきました。そのためには、常に愉快に、一杯大きな声を出して面白く演劇することをモットーにしています。
戦後、兵役から帰って狂言界にもどりましたが、当時は狂言の衰退期で、学校を巡ったり、若い世代への狂言普及や新作狂言

◆「能」と「狂言」はもとも「猿楽」から分かれたといわれていますが、互のちがいと新時代への狂言のあり方は…
狂言はドラマチックなセリフ劇です。能は、歌（謡）と音楽（獅子）の芸能です。また、狂言は喜劇であり、能は悲劇が多い。互いに違いがありますが、狂言はつづしがききます。新世紀に入り、新しい演劇の形態にも参加させていただき、古典芸能の伝統を大切にしながら新感覚も取り入れた創造性も大切だと思います。

若い狂言師が現代劇やテレビドラマなどに出演することは結構なことだと思います。しかし狂言師としての本質を忘れないことが大切です。それには狂言の基礎を修得し、稽古に励み、藝を身につけた上で他の演芸活動に参加して欲しいと思います。
私も若い時代にテレビドラマや映画に出たことがあり、狂言の世界の普及にも役立ったと思います。

◆最近、若い狂言師がテレビ等に出演し人気を集めています。他の演芸活動の係りについてどうお考えですか…
の上演など一人でも多くの人に観ていただく方針で親しまれる狂言一筋に努めてきました。



恐妻物で笑いを提供した「涙き川」の熱演

「百合の歌人」 山川登美子 (小浜市)

平成12年 「若狭を謳う」実行委
顕彰歌碑を建立

若狭が誇りとする歌人山川登美子を顕彰しようと「若狭を謳う」実行委員会が中心となって、平成12年4月、小浜市書取に新しい登美子の歌碑が建てられました。

高さ1・6メートルの花崗岩の自然石には、登美子の代表作ともいえる「恋衣」(明治38年1月、本郷書院刊)「百合」の華巻頭の歌(左記の歌)が刻まれています。

歌碑の書体は、敦賀市に在住する書家の千葉半崖さんの揮毫によるものです。

この歌について坂本政親氏(福井大学名誉教授)著「山川登美子全集・下巻」に次のように通釈しています。

「黒髪はたけ長く豊かな少女として生まれ育った私は、いま百合の花に顔を深く埋めるようにして、その高い香りにうっとりしながら、ほかならぬあなたのことをひたすら思い慕っているのです。」

髪ながき、乙女とうまれ しろ百合に
顔は伏せつつ 君こそ思へ



平成12年4月除幕された登美子歌碑—小浜市書取



昭和25年(1950)建立された登美子旧歌碑—小浜公園

いく身かみは帆をこす雲に
笑み北国人とうたわれにけり

薄幸の歌人

登美子の生い立ち

登美子は、明治12年(1879)旧小浜藩士山川貞蔵の4女として生まれ、17歳で大阪の梅花女学校に入学、船学の傍ら短歌の勉強も始めました。卒業後は、与謝野鉄幹が主宰する新報社の社友となり、文芸誌「明星」に彼女の歌が掲載されるなど、その才能が一気に歌の世界に開花しました。

登美子は鉄幹を師と仰ぎながらも悪い癖

登美子の生家
—旧遠敷郡竹原村(現・小浜市千種1丁目)

うようになり、歌のライバルで後に鉄幹の妻となる曇子と三角関係にあったというロマンが言い伝えられています。恋の夢も敗れ、明治34年(1901)父親が決めた婿約者山川七郎と結婚しますが、1年後に夫が病死します。夫の死後、明治37年(1904)日本女子大学に入学。作歌も本格的に再開し、曇子・登美子・増田雅子の3人で歌集「恋衣」を発売し、文壇で高い評価を得ました。その頃より、不治の病に冒され、希望に燃えて入学した女子大も中途退学をせざるを得ないことになりました。その後、病床にありながら歌を詠み、投稿することが唯一の心の慰めとなる日々が続きます。

明治41年(1908)1月、父貞蔵が永眠。最愛の父を失ったこの年の1月、「明星」が薄幸号をもって廃刊となります。

明治42年(1909)4月15日、桜の花が散るように、登美子は29歳9ヶ月の短い人生を閉じました。

薄幸の歌人登美子は、生涯に千六百首余りの歌を詠んでおり、彼女の文学の中には、若狭の風土が深く関わっているといわれ、昭和25年に建てられた旧歌碑に刻まれた歌詞からもそのことがよく伺えます。

敦賀市立博物館所蔵
逸品絵画誌上展

6

敦賀市立博物館では郷土にゆかりのある作家や師弟関係などでつながる近世・近代絵画を系統的に収集しています。今回も所蔵逸品絵画2幅を紹介することにしました。



業平東下図 双幅 板谷広長筆

【解説】

本図は在原業平（平安時代初期の歌人）とみられる公家が、京を離れて東国に住居を求めて旅をする途上、駿河国にいたり富士山の積雪を見て感慨にふける情景を描いたもので、大和絵の好画題の一つです。

『伊勢物語』の「富士の山をみれば、五月のつこもりに、雪いと白う降り。時知らぬ山は富士の誰いつとてか、鹿の子まだらに雪の降るらむ」が出典であります。

主従7人の相貌は身分に応じて描き分けられ、装束も身分のある者は麗麗な細線で、白丁姿の下人は肥渾のある強い描線を用いるなどの配慮がなされています。また、富士を眺める主従の静に対し、華麗な置鞍の駿馬を囲む下人たちの姿や周囲の様子には躍動感が見え、さらに華やかで美しい色とりと大振りの人物構成とが相俟って、迫力ある画面に仕立てられています。作品は、江戸時代後期の作。

【参考】

『伊勢物語』 平安時代初期の歌物語。在原業平とみられる歌人を主人公として和歌を中心とし、恋愛と漂泊をえがいた作品。

作者、成立年代とも不明。

【作者の経歴】

板谷広長は宝暦10年（1760）、江戸幕府お抱絵師・板谷広当（慶舟）の次男として生まれ、名は広長、慶意と称し、寛政8年（1796）37歳で、慶意を桂葉と改めます。文化11年（1814）55歳で死去。

シリーズ
ふくいの
伝統芸能

福井市指定無形民俗文化財

オシッサマのお渡り

福井市
本堂町

福井市本堂町、高雄神社の秋例祭(例年は10月9・10日)に行われる福井市指定の無形民俗文化財「オシッサマのお渡り」が10月6日夜、古式豊かに行われました。

今年は、同神社の17年目毎に行われる高雄大権現開扉の年に当り、多様な記念行事が計画される中、伝統ある渡御神事が多くの見学者に見守られながら執り行われました。



行列を整えてお宮からお宮へオシッサマ渡御

和紙で神衣づくり

この伝統ある行事の守護役は、本堂町の4軒の家が昔から変らず引き継がれています。毎年1軒が交代で受け持ち、祭礼の前日、宵の宮の祭神、猿田彦大神、天鈿女命の神衣をつくる作業が行われます。今年は堂下吉男さん宅が担当され、越前和紙80枚を紙切り包丁で切り、麻の縄に縫い込み一連の神衣を作り上げました。



2神の神衣をつくる紙切り



神衣の仕切りを安置した御宿所



お獅子をかぶり7村巡回

宵の宮の大門付近へ来た(一神)獅子と猿田彦(は、まず小田原提灯の下で舞い、その後大鳥居をくぐり抜け疾走して元の宵の宮に戻ります。ここでもオンモクの行事が行われ、社殿からオンモクが分けられます。

お獅子7村を巡回

6日早朝から獅子の行列が旧西安居村の7村(本堂、更毛、羽坂、細坂、北堀、安田、恐神の各集落)を巡回し、世襲制で定められた13軒の家立ち寄りします。これらの家は、昔、この地に化け物が出現し、子供を死児の橋へ人身供養に出したという伝説が残されています。

巡回には、獅子頭をかぶる若い神守り4人、ふれ太鼓を鳴らす中学生5人、供養米(オカスマイ)を運ぶ村人2人、計11人程度の構成で進められます。獅子頭は今から7百年前に作られたといわれ、神衣を含めて60キロの重さがあり、若い神守りが交替

ハナオッサマを先頭に お獅子サマ渡御

しながらつとめ、夕方には宵の宮に戻ります。

夜8時頃、氏子総代らが宵の宮へ獅子を運ばせ、行列を整えて、松手の宮へ渡御します。行列の構成は、まずハナオッサマ(獅子王様)が先導します。鼻高面に白紙の紙を垂らした獅子王は、若い衆がその面を竹竿の先に高く掲げて歩みます。その後には区長など役員者、次いでササ竹の綱を引く子供、若い衆が獅子頭をかぶった獅子、太鼓車と続き、子供たちは、「サイヨ

お獅子の還御

7日午後1時頃、獅子は宵の宮へ帰ります。これを獅子の還御といい、行列の構成は渡御と同じで、宵の宮の大門付近へ来た(一神)獅子と猿田彦(は、まず小田原提灯の下で舞い、その後大鳥居をくぐり抜け疾走して元の宵の宮に戻ります。ここでもオンモクの行事が行われ、社殿からオンモクが分けられます。



伝統行事の舞台となる高雄神社



高雄神社の御祭神

高雄神社は、正面が本宮(高雄大権現、白山権現、越知山権現)、向って左が薬師堂(大国主命、応神天皇、春日明神)、右が宵の宮(猿田彦大神、天鈿女命)のご祭神が祀られています。この宵の宮の天鈿女命がお獅子様です。

新たに

福祉演芸会開く

マジック

松旭齋 さん
小天正 さん

演歌
歌手

林田 さん
麻友子 さん 招く

財団では、人に優しいゆとりとふれあい活動事業として高齢者や障害者の方々のふれあいを通し生き甲斐づくりの輪を広めようと、本年度は表い新たに「マジックと歌謡ショー」を企画。9月23日から24日、松旭齋小天正さん（吉本興業所属）と歌手の林田麻友子さん（日本コロムビア）を招き県内6つの福祉施設（別表のとおり）を巡回、福祉演芸会を開きました。

各施設の会場とも開会30分前には車いすの入所者をはじめ最寄りの福祉施設のお年寄りも詰めかけ、3日間で延約650人が参加して楽しい一刻を過ごしました。

各会場とも初めに、小天正さんが登場。コメディカルで巧みな話術を交え、うそ結びのハンカチや魔法の紙袋に入れたビールビンの消失手品、トランプを使ったマジック



お年寄りに囲まれ記念撮影—坂井町 豊楽園
(中央右歌手の林田さん・左マジックの小天正さん)

ふれあいで楽しい一刻

溪山荘施設長 桜井啓行さん

今回の演芸会は、今までとは異なった趣向での催しもので、参加者は大変な喜びようでした。歌手の林田麻友子さんも歌謡の機軸を心持た微笑ましい演出で、観客も無心に歌い、手拍子を打つなど楽しいふれあいの一刻でした。また、マジックも分かりやすい芸で良かったと思います。

最寄りの施設や地区の方も参加し、会場一杯（150人）の盛況で、1時間はあっというまに過ぎた感じでした。

プロに接していい刺激

光道園 利用者 H・Sさん

当所は「プロが来る」ということで、楽しみに早くから会場待ちました。

マジックショーは、面白いトークもあり、わくわくしました。歌謡ショーもとても楽しく一緒に歌い、手拍子もしている雰囲気でした。

プロの歌手を生で見、じかに歌を聞くことができ嬉しかったです。今後とも、ぜひまた来てください。（利用者に聞き代筆しました。介護職員）

私が見た「福祉演芸会」

アンケートの回答から

クを披露。最後に、金龍輪による「キング・リング」といわれる古典マジックの不思議な演技に驚きの声と笑いに包まれていました。

歌謡ショーでは、演歌歌手の林田さんが「潮来笠」や「稲根八里の半次郎」などなじみの曲を歌い上げ、オリジナル曲「男・天野屋利兵衛」をこぶしのきいた豊かな声で熱唱、会場から大きな拍手が送られました。後半、演壇を降り客席で「青山山脈」など懐かしい歌謡曲をみんなと一緒に合唱したり、手拍子を打つたりして、ふれあい演芸会を盛りあげました。



なつかしい歌謡曲を歌う
林田麻友子さん—敦賀市 溪山荘

10/25 (木)	10/24 (水)	10/23 (火)
14時—10時	14時—10時	14時—10時
朝日町	大野市	福井市
光道園 ハウス	済生会聖和園	新田家ハウス
		豊楽園
		小浜福寿園
		溪山荘

目・耳・ふれあう楽しみ

県済生会聖和園 職員 岩崎剛さん

通常、1時間の時間ですが、あきてしまいがちな入居者がありますが、今回は中途退場もなく良かったと思います。マジック・歌謡ショーと目で楽しむ、耳で楽しむ、ふれあうて楽しむ内容が、入居者には喜ばれたと思います。また、1時間のあいだに2部門に分かれたショーで興味を深めました。

今後も、ぜひ定期的に計画してほしいと思います。

みんな待っていた演芸会

小浜福寿園 介護職員 中村令子さん

出演者のポスターを貼る、プロの方が来ていたたく機会が少ないので、皆さん待っていました。

特養では、耳の遠い人もありますが、歌の好きな人が多く、リズムもとれるので楽しんで聴かせてもらったと思います。

マジックショーもユーモアがあり楽しく良かったと思います。



ハンカチの手品を披露する
松旭齋小天正さん—小浜福寿園

げんでんふれあいコンサート

10/28 福井

中島啓江ミュージックランド



豊かな声量で会場を魅了した中島啓江さん

財団では、げんでんふれあいコンサート2001「中島啓江ミュージックランド」（日本原電協賛）を10月28日、福井市 ハーモニーホールふくいで開きました。

コンサートには、約千人のファンが集まり、オペラ界出身の歌手の中島啓江さんとピアノ、ベース、サクソフーン、ドラムのバンド演奏者の構成で楽しい歌の世界を実現しました。第一部では、中島さんが自ら司会、トークを交え、日本の歌を中心に進行。最初に「夢で逢いましょう」で始まり、「小さい秋見つけた」や日本のポピュラー音楽の名曲「上を向いて歩こう」など声量満ちた歌唱で会場を響かせました。

第二部では、世界の名曲を中心に、舞台から客席に入り込み、オペラの世界などを語りながら、イタリアの民謡やシューベルト作曲の「アヴェ・マリア」、ビートルズの「Let it be」、『美女と野獣』などをバワフルに歌い上げました。

最後に、会場のアンコールに応えて「デネシー・ワルツ」を優雅な声で締めくくり、会場を魅了しました。

東京佼成ウインド
オーケストラ 公演

10/14

吹奏楽の神様
F・フェネル氏指揮

福井

国内屈指の吹奏楽団・東京佼成ウインドオーケストラによる「2001ふくい吹奏楽フェスティバル」（県文化振興事業団・福井新聞社主催、当財団協賛）が10月13、14日の3日間、県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）で開かれました。

3日目のフェスティバル・コンサートでは、吹奏楽の神様、といわれる米国のフレデリック・フェネル氏が約50名のオーケストラを指揮。A・リード作曲の「アルメニアン・ダンスパート」で幕を開け、次々と濃厚なサウンドを響かせました。終幕、ロシアの文豪レールモントフの戯曲から編



フェネル・サウンドに導いた吹奏楽フェスティバル＝ハーモニーホールふくい

曲された「仮面舞踏会」が演奏され、ワルツ、夜想曲などの洗練された響きは、会場に集まった約1200人のファンを魅了しました。

最後に、アンコールに代えて、ゴールドマン作曲のマーチ「ラッパと太鼓」を高高らかに演奏し、会場から惜しめない拍手が送られフィナーレを飾りました。

日韓美術作家交流展

8/23
~26

韓国作家5人を招く 小浜

韓国作家5人を招いた「日韓美術作家交流展」（主催・若狭湾美術展作家集団、協賛・当財団）が8月23日から26日までの4日間、小浜市の県立若狭図書館学習センターで開かれました。

同集団と韓国作家との交流は、1昨年度賀賀市で開催された若狭湾美術展から相互に交



韓国作家を招いて開かれた日韓美術作家交流展＝小浜市・県立若狭図書館学習センター

流し合い毎年続けられており、今回は、小浜市と姉妹都市を提携している韓国慶州市に在住の画家と陶芸家の作品5点、樹南8市町村に住む作家39人が絵画、造形、書、陶芸、写真の4分野、約50点が出品展示されました。

招かれた韓国作家は、大韓民国美術大展で特選に選ばれたなどの一流の作家揃いで、韓国美術協会慶州支部長の崔泳達さんの洋画「となりの風景」などの作品に注目が集まり、期間中訪れた観客は多彩で感性あふれる日韓交流美術展の作品の数々にじっくりと鑑賞にひたっていました。

湖畔で観月の夕べ

9/1

茶会・芸能など披露

芦原



「観月の夕べ」の水上ステージで舞う日本舞踊

「あわら北湖湖畔観月の夕べ」が9月1日芦原町の北湖湖畔サイクリングパークで開かれました。この催しは、同実行委員会主催（当財団後援）で湖畔に映る月をめでながら伝統芸能に触れ、文化の薫り高いイベントを通して郷土愛を育てようという思いで発足したものです。

第一部の選抜芸能祭は、午後2時半から水上ステージで、地元のおしほら太鼓保存会の演奏で幕開け。加賀市民協会、三国安曇区なんぼや保存会など、越前・加賀みずといで湯の文化連邦」の各団体が郷土芸能を披露。第二部の観月の夕べでは、芦原温泉芸妓組合の長唄、北湖民謡保存会の「どつしやどつしや踊り」や日本舞踊など多彩な芸能が次々と発表されました。

湖畔では、茶席が設けられ、浴衣姿の女性たちが湖をバックにお点前を披露。集まった来場者は、月をめでながら風雅な一刻を楽しみ、フィナーレに約160発の花火が夜空を彩っていました。

多彩に若い感性を発揮

福井

8/1



合同チームで詩舞を演ずる発表ステージ
—福井市フェニックスプラザ

第12回県高校総合文化祭総合開会式が福井県で開催される第25回全国高校総合文化祭の壮行発表会を兼ねて、8月1日、福井市のフェニックス・プラザで開かれました。開会式には福岡大会に出場する参加生徒のほか文化部の生徒や父兄約600名が集まり、オープニングは、三國高校合唱部による「三國節」を三味線伴奏による合唱に始まり、福井の特色や趣向を凝らした開幕に注目を集めました。

第2部の壮行発表会では、吟詠詩舞部門で丸岡、仁愛女子、丹生、敦賀工業、敦賀気比高校の合同チームが「昂」などの詩舞を披露。藤岡、高志、丹生、武生高校の合同弦楽部では、テレマン作曲「ラ・ピュタ」を演奏するなど全国大会での発表ステージを再現しました。

第3部では、2年後の福井大会のための試行的演目「ハイスクール・ラブソニー」（脚本・丹生高・玉村敬氏）

高校美術・書道・写真展

11/1~4

第39回県高校芸術祭、美術・書道・写真展（主催＝県高文連、協賛＝当財団）が11月1日から4日まで、県立美術館で開催されました。初日は、高校文化部の生徒が司会した開場式が行われ、テープカット後、美術・書道・写真の3部門の作品計685点が展示された会場を開幕しました。

美術部門では、28校から参加作品355点が出展され、抽象画や具象画のほか陶芸など造形作品も並べられ、エネルギーシユで若い感性に満ちた力作が目立っていました。

書道部門では、28校、242点の作品が揭示され、行書で漢詩を書いた半切作品のほか現代詩、てん書など多彩な作品で、中には部員の特徴を活かした共同作品が目立っていました。

写真の部では、12校、88点が出展。白黒の風景や仲間たちのスナップのほかデジタル部門で色鮮やかに画像処理された作品も並び、会場に彩りを添えていました。



美術部門で仲間の作品を見入る高校生ら
—県立美術館

と題して武生高演劇部の生徒による掛け合い演劇を演出、その幕間に敦賀高校吹奏楽部、高志高校邦楽部の琴演奏、郷土芸能部門では福井県林高校の和太鼓、仁愛女子高の洋舞の熱演が組み入れられ、舞台を盛り上げました。最後に出演者全員による福井大会のイメージソング「未来」を大合唱し、フィナーレを飾りました。

文化 バイマーヤンジンさん
講演 (チベット音楽家) 招く

11/6 敦賀



▼「若狭の四季」を華やかに舞う
小浜市の貝谷八百子バレエ団

▲尺八と大正琴の合奏する高浜町「ことのねグループ」

第12回 県市町村文協
選抜芸能祭

9/23 三國

洗練された芸能を披露

第12回県市町村文協選抜芸能祭（当財団協賛）が9月23日、三國町社会福祉センターで開催されました。25市町村文協から選ばれた代表団体、約320人が出演。大正琴や吟舞、バレエなど日頃練習された成果をステージいっぱいいに表現しました。

高浜町文協の「ことのねグループ」による尺八と大正琴の合奏で開幕。大坂町の「ハーモニおおい」がフォスターメドレーを合唱し、小浜市の貝谷八百子バレエ団では、春の海「若狭の四季」を優雅な音色の中に華麗なバレエを披露して、会場から大きな拍手が送られていました。

とり、地元三國町文協の14団体が参加して「三國今昔物語」を曲目に、郷土色を生かした創作演舞などを華やかに演出して芸能祭のフィナーレを飾りました。



民族衣装でチベット民謡を歌う
バイマーヤンジンさん

財団では、チベットの音楽家バイマーヤンジンさん（大阪府吹田市在住）を招き、トークとコンサートで構成した文化講演会を11月6日、敦賀市民文化センターで開催しました。

講演は「日本とチベット、異

文化を越えて」をテーマに、チベットの地理や習慣、文化などを日本と比較しながらユーモアを交えて語り、特に食習慣の違いで家族間交流で苦労した実話を披露し、互に習慣の違いを認め合う大切さをうたったっていました。また、教育の問題にもふれ、日本の恵まれた環境の中で、子供達のしつけについて、大人達の他人主義に苦言を呈するなど、社会環境をよくするためには勇気を持って人の心の暖かさを示すことを強調しました。

コンサートでは、ピアニスト高瀬佳子さんの伴奏で、チベット民謡「友よ」をはじめ日本民謡「赤とんぼ」などを美しい声で歌い上げ、最後に、故郷の子供達が踊りながら歌うという「ソナンヤンソオラ」を豊かな声量で歌い、集まった約400人の聴衆から盛んな拍手が送られました。

第4回 ふるさと大賞 2001写真コンテスト

作品募集

テーマ

21世紀に伝えたい

ふるさとの宝

福井の自然・歴史・文化を求めて



第3回ふるさと大賞作品 「梅雨に咲く」 廣部保和氏 (敦賀市)

締め切り
迫る!!

締め切り **12月14日(金)** 当日消印有効

主催：(財)げんでんふれあい福井財団
後援：福井県／福井県教育委員会／敦賀市／敦賀市教育委員会
(社)福井県文化協議会／福井県高等学校文化連盟／福井新聞社
福井放送／福井テレビ／福井ケーブルネットワーク
協賛：福井県カメラ商組合／富士写真フィルム(株)／(株)福井フジカラー

ふるさと大賞 1点……30万円
ふるさと賞 3点
学生5万円1点／一般10万円1点／女性10万円1点
優秀賞 6点
学生 3万円2点／一般 5万円2点／女性 5万円2点
入選 35点 (記念品)
学生5点／一般20点／女性10点
佳作 35点 (記念品)
学生5点／一般20点／女性10点

部門 学生部門(高校生以上)・一般部門
一般女性部門の3部門

資格 1) 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること
2) 写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと

作品の規格 カラー・モノクロで四つ切り又は四つ切りワイドの単写真(学生は六つ切り可)

応募先 1) 〒914-0051 福井県敦賀市本町2-9-16 (財)げんでんふれあい福井財団
2) 福井県カメラ商組合加盟店及び県内フジカラー取扱店

審査員 審査委員長：八木隆氏(写真家)ほか

結果発表 平成14年1月下旬

表彰 平成14年2月7日(ふるさとの日)

財団イベント INFORMATION

日英小学生絵画交流展	敦賀市4小学校とイギリス・セラフィード地区10小学校児童絵画の交流展	12/ 9(日)～12/16(日)	敦賀原子力館
		12/18(火)～12/23(日)	げんでんふれあいギャラリー(本町2-9-16)
		平成14年 1/4(金)～1/9(水)	敦賀市・ポートン2F
第4回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展	敦賀会場	平成14年 2/5(火)～2/17(日)	げんでんふれあいギャラリー(本町2-9-16)
	福井会場	平成14年 2/22(金)～2/27(水)	福井市・ショッピングシティ「ベル」
めざましクラシックス	福井県文化振興事業団主催 当財団協賛	平成14年 2/16(土)	福井市・ハーモニーホールふくい

財団ホームページ アドレス <http://www.Genden.or.jp>